

【国語・小6「日本文化を発信しよう」】①

育成を目指す資質・能力

- (知識及び技能) 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。
(2)イ
- (思、判、表等) 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。
B(1)エ
- (学びに向かう力等) 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする。

ICT活用のポイント

書き表し方を工夫するための交流活動の推進と推敲の簡便化

【つかむ】日本文化についてパンフレットにまとめる学習の見通しをもつ。

5年生に日本文化を知らせるパンフレットを作ろう

【追究する】ページごとの割付を考え、引用や図表などの活用により書き表し方を工夫する。

【まとめる】書き上げたパンフレットを読み合う。

事例の概要

○題材を決め、構想を練るヒントを得るため、学習支援ソフトで日本文化にはどんなものがあるか全体で共有する。

○紹介したい日本文化について図書室の本やインターネットを用いて調べる。

○パンフレット全体の構成やページの割付を考え、学習支援ソフトで下書きを作成する。

○グループでお互いのパンフレットを読み合い、良いところや改善点についてアドバイスし合う。【事例におけるICT活用の場面】

○前時のアドバイスコメントを基に学習支援ソフトを用いて、パンフレットを完成させる。

【国語・小6・「日本文化を発信しよう」②】

【事例におけるICT活用の場面①】

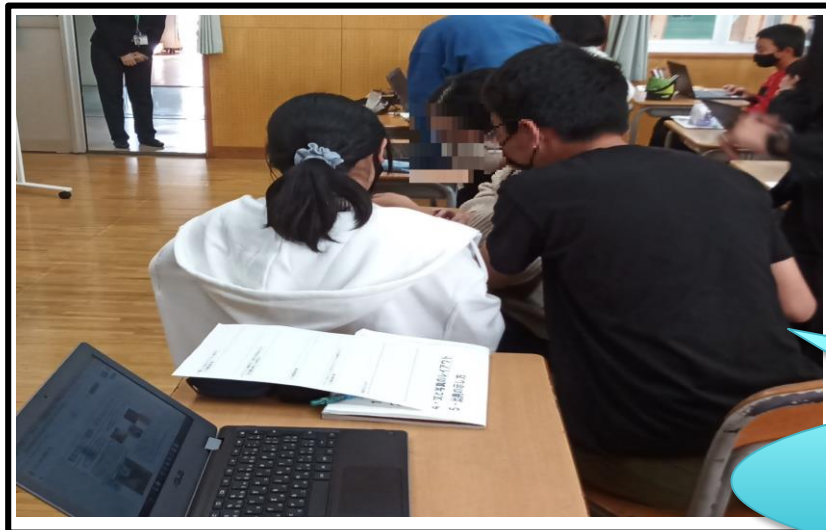


◆個で考える場面で

- 学習支援ソフトで個々に作成したパンフレットについてグループのメンバーの直すとよいところや分かりやすく書けているところなどを、学習支援ソフトの付せん機能を用いてアドバイスしている。
- 交流するメンバーを少人数のグループに限定したことで、1つ1つのパンフレットについて、よさや改善点を十分に時間をかけて考えることができていた。

紙ではないから、移動や書換えが簡単。
同じ内容のアドバイスには同じ付せんが
使えて便利！

【事例におけるICT活用の場面②】



◆グループで考えを確認し合う場面で

- 長文は避けてメモ的に指摘した点について言葉を補い、ICT端末を使って口頭でアドバイスし合っている。
- 学習支援ソフトの付せん機能を用いて、アドバイスの内容によって色分けしたことで視覚的に捉えやすくなっていた。

1人6ページもあって読むのが大変
だけど、ICT端末だとカラーで読みや
すくてアドバイスも見やすい！

【活用したソフト
や機能】

- ・ウェブブラウザ
- ・学習支援ソフト